

16. 人間ドック受診者における血中接着因子濃度に関する因子の検討

健康管理科、循環器内科

松本信子、堀江かおり、渡辺菜穂美、大類方巳、石光俊彦、松岡博昭

目的：人間ドック受診者において血清E-セレクチン値（sES）と関係する因子について検討した。対象、方法：2001年11月から2002年6月に当院人間ドックを受診し加療中の疾患を有さない242名を対象とし、ELISAにてsESを測定して、喫煙、飲酒習慣や身体所見、検査所見との関係を検討した。

結果：sESは肥満、高血圧、喫煙、白血球数高値、ヘモグロビン高値、肝酵素上昇、血清HDL-コレステロール低値、中性脂肪高値、尿酸高値、耐糖能異常、肺活量低値などの項目と相関した。また、高血圧、高脂血症、耐糖能異常、喫煙などの危険因子の数が多いほどsESが高値であった。結論：sESは、肝障害、耐糖能異常、炎症、高ヘマトクリットなどに関係し、心血管系危険因子の存在により増加すると考えられた。

17. 同所性移植ヒト胆嚢癌に対するMAPKK阻害剤を用いた分子標的治療

病理学(人体分子)

堀内秀樹、川又均、表原文江、降籙正、品川泰弘、堀宏成、井村穰二、黒田嘉和、藤盛孝博

【目的】同所性移植ヒト胆嚢癌にMAPKK阻害剤を用いた分子標的治療を行う。【対象・方法】ヒト胆嚢癌細胞NOZの特性を明らかにし、MAPKK阻害剤の*in vitro*とヒト胆嚢癌ヌードマウス同所性移植モデルでの抗腫瘍効果を検討した。【結果】NOZ細胞はK-rasに活性化変異を有し、古典的MAPK経路は恒常的に活性化され、p53はコドン331にナンセンス変異を認めた。MAPKK阻害剤は*in vitro*でNOZ細胞の増殖を抑制し、細胞外基質分解酵素の産生も抑制した。ヌードマウスに同所性移植されたNOZ細胞はヒト胆嚢癌と同様の伸展様式を示し、高率にリンパ節、肺に転移を生じた。このモデルにMAPKK阻害剤を使用すると、明らかな副作用なく生存期間の延長が認められた。